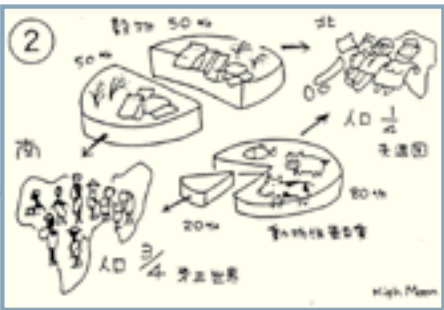


あなたが捨てたごみと輸入大国ニッポン！

海外資源に頼らなければならない日本。

今では、世界でも有数の輸入大国になりました。しかし、日本の消費を支える生産国で環境悪化が進行している事例や、慢性的な栄養不足で苦しむ人がこの地球上に約8億人もいることなど、世界の中の日本のごみ問題の大きさを知ることが重要です。

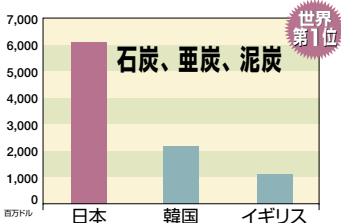
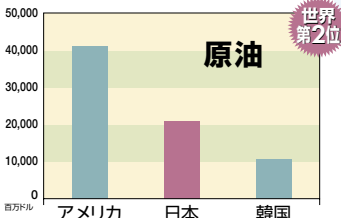
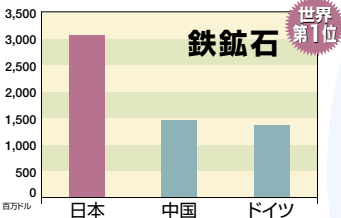


絵本 絵コロシー（改訂三版）、作画ハイ・ムーン、中部リサイクル運動市民の会（1997）

現在、日本では約3700万人もの成人の栄養摂取量に相当する700万トンもの残飯が発生しています。

グローバルな視点で
日本のごみ問題を考える。

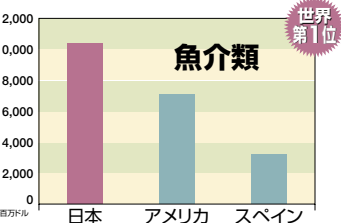
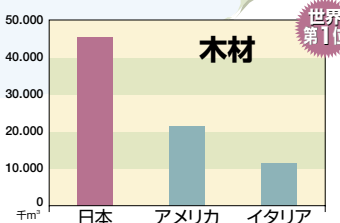
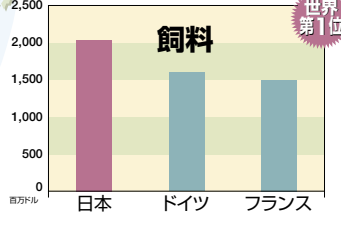
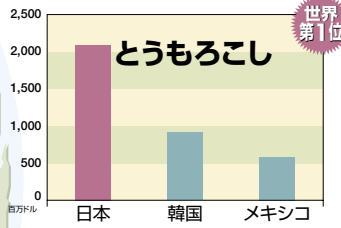
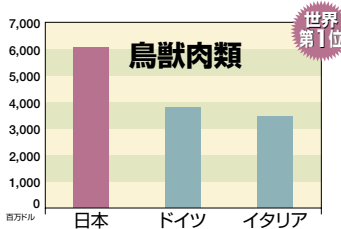
＜輸入量＞



輸入7.3億トン



輸出1.1億トン



日本の海外依存率

食料品	60%	木材	51%
鉄	100%	アルミ	
原油	99.7%	100%	
塩	85.4%	石炭	97.2%

参考資料：平成12年版環境白書（環境庁）貿易統計年鑑（国際連合）

四里四方で採れるものを食べていた日本人。

日本では「身土不二（しんどふじ）」「地産地消（ちさんちしょう）」といった考え方があり、身体と土は一体のものでわたしたちの生きる環境と同じ条件でつくられた季節の地のものを食べることがいちばん身体によいとされました。また、近くの田畑は知らず知らずのうちに、食べ物や自然環境を大切に作る習慣も育んでくれました。

しかし現在国内の生産量だけでは足りず、輸入に頼らなければならないものもあります。世界から分けてもらった貴重な食料資源、わたしたちは少しも無駄にせずに、ひとつひとつの食材を大切にいただきたいものです。

生産地が遠くなっても、自然の恵みに感謝する心は持ちつづけたい。



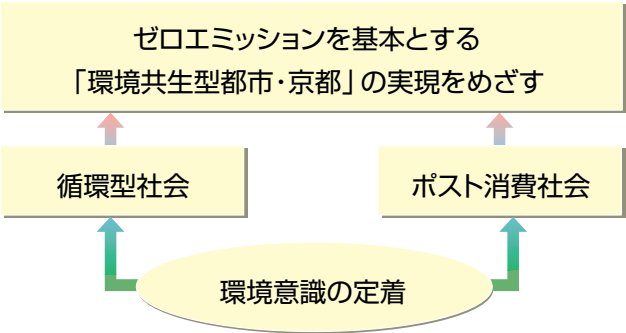
京都市のごみ減量・リサイクル計画

新京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成11年6月策定）

「京（みやこ）・めぐるプラン」とは

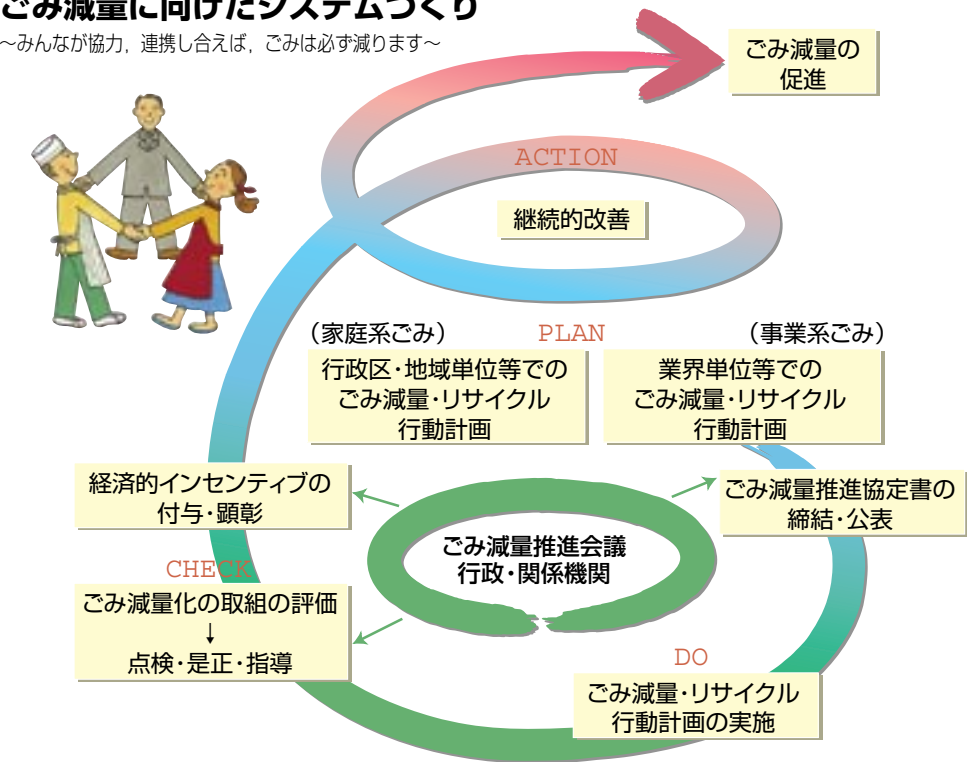
京都市は、豊かさを生活の質に求める「ポスト消費社会」と廃棄物を出さない「循環型社会」が実現された「ゼロエミッション」を基本とする社会の実現をめざし、ごみ減量に取り組んでいます。

詳しくは、ごみ減量・リサイクル行動計画「京（みやこ）めぐるアクションプラン」をご覧ください。



ごみ減量に向けたシステムづくり

～みんなが協力、連携し合えば、ごみは必ず減ります～



ごみの減量目標



共に手をとりあえばきっとできる。

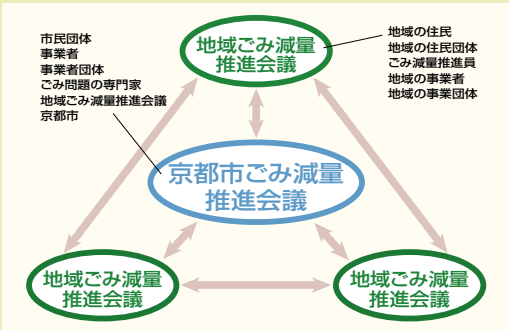
「京都市ごみ減量推進会議」は あなたが主役。

市民・事業者・行政のパートナーシップを基盤に、それぞれの立場を理解し合い、生かしながら、新たに生まれた絆によって全市的にごみ減量に取り組むものです。ぜひご参加ください。

こんなことをしています。

- 簡易包装推進・買い物袋推進キャンペーン
 - 「めぐレットペーパー」の開発と普及
 - 缶・びん・ペットボトル収集の透明ごみ袋の企画とレジ袋の透明化・有料化の呼びかけ
 - 地域ごみ減量推進会議の立ち上げ
 - 「市役所前フリーマ」の開催
- そのほか、リユースびんのシステムの確立、ごみ学習会の開催、ごみアート展、機関紙「ごみを減らそう!」の発行など、多彩に展開。

京都市ごみ減量推進会議機構



「ごみ」と「地球」のことを考えたい。 京（みやこ）エコロジーセンター （京都市環境保全活動センター）

- 1 ごみ減量と地球温暖化防止の取組を広げる拠点
- 2 市民と事業者とのパートナーシップの拠点
- 3 こどもたちの環境学習拠点
- 4 環境にやさしい建物と運営のモデルの4つを基本的機能として、青少年科学センター（伏見区）の横に開設されます。

平成14年4月
オープン